

コンクール概要

このコンクールは、青少年に「夢」と「チャンス」を与え、将来の技術者の育成に寄与するとともに、永く府民に愛され、親しまれる公共建築づくりを進めていくことを目的とし、小規模な公共建築物を題材に府内の高校生や専修学校生等からアイデアを募集し、最優秀作品賞に選定された作品の提案趣旨を活かして事業化を行うものです。

【テーマ】

「豊かなときを刻む」 ー大阪府営富田林楠住宅集会所ー

【主な設計条件】

所在地 富田林市楠町
計画地面積 約 990 m² (集会所敷地)
延べ面積 240 m²～260 m²
構造・規模 鉄筋コンクリート造 平屋建て(地下なし)

【作品受付期間】

平成 22 年 1 月 12 日 (火) ～ 1 月 15 日 (金)

【応募状況】

応募校数 : 13 校
応募作品数 : 195 点 (うち 第 1 部 77 点、第 2 部 118 点)
応募者数 : 214 人 (うち 第 1 部 77 人、第 2 部 137 人)

【応募資格】

大阪府内に所在する工業高等学校(工科高等学校)・短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校、高等職業技術専門校の建築関連学科に在籍する学生・生徒であり、個人または3名以下のグループでの応募とする。

【募集区分】

第 1 部…大阪府内の工業高等学校(工科高等学校)等に在籍する生徒。
第 2 部…大阪府内の短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校・高等職業技術専門校に在籍する学生。

【入賞作品と賞】

最優秀作品賞 : 1 点 優秀作品賞 : 3 点 佳作 : 3 点 奨励賞 : 3 点
入賞作品は、上記のとおり合計 10 点を選出し、それぞれの入賞者に賞状を授与した。ただし、優秀作品賞、佳作、奨励賞については、全体で第 1 部と第 2 部からそれぞれ 2 点以上の入賞作品を選出するものとした。

【表彰式】

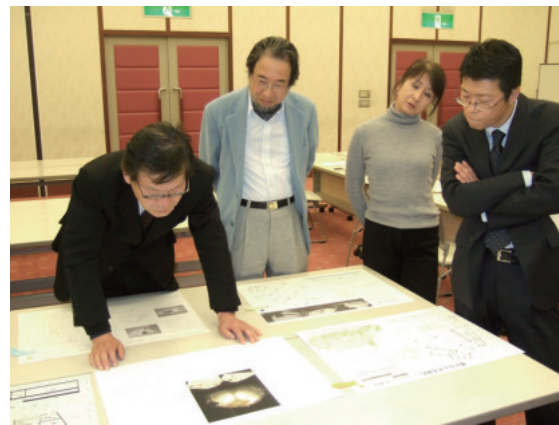
日 時 : 平成 22 年 3 月 26 日 (金) 午前 11 時～正午
場 所 : 大阪府公館 大サロン

【プレゼンテーション】

日 時 : 平成 22 年 3 月 26 日 (金) 午後 1 時半～午後 4 時
場 所 : 大阪府公館 大サロン
内 容 : 受賞者による作品プレゼンテーション、
審査委員とのフリーディスカッション他

【入賞作品の展示】

期間・場所 : 平成 22 年 4 月 5 日 (月) ～ 4 月 16 日 (金)
大阪府庁本館玄関ロビー 平日 : 午前 9 時から午後 5 時まで



審査委員

(審査委員長)

狩野 忠正

(大阪芸術大学芸術研究科客員教授)

大坪 明

(武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科教授)

加我 宏之

(大阪府立大学大学院生命環境科学研究所准教授)

吉羽 裕子

(株式会社吉羽裕子建築研究所代表)

中川 富雄

(大阪府住宅まちづくり部住宅経営室住宅整備課長)

南 正晴

(大阪府住宅まちづくり部公共建築室長)

総 評

審査委員長 狩野 忠正

今回の作品を総括すると、維持管理を考え、建築として安定した力が発揮されたと云える。逆に考えると、設計を始めようとする学生がこれで良いのだろうかと言う疑問が持たれるのである。管理運営し易いことに重きを置いていないだろうか。建設コストに気をとられすぎではないだろうかと言うことになる。審査側にとってはこう云う点は十分に理解した上での審査であることは間違いない。選考する上で一番重視することは選ばれた学生達の将来性であり、今の年代を考えた上で個性ある斬新性なのである。タイトルに書かれている、夢建築でなければならぬのだ。最後の決め手となるのは、若者らしい夢を語る設計でなければならないと考えるのである。若者の夢はどんなに高度なものだろうかと思うのである。その夢は永遠性を持たなければ、普遍的な秩序を持つものでなければと思うのである。今を背景に語られる夢でなければならないのである。この規模で、この内容で、世界に通用するものでありたいのである。その為には「刺激」となる要素が大切である。友人、家庭、学校、社会でどのようなコミュニケーションがなされているのだろうかを考えるのである。コミュニケーションあつての創造への「刺激」なのだ。「刺激」からくる戦慄を感じるほどの孤高を期待するのである。コミュニケーションから生まれる言葉、イメージは人々の心を動かすものである。建築の設計とは使う人間が主役である。奇をてらった空間は必要ではない。変わった形態は必要ではない。特に、CADで表現する時代となり、このような問題を感じるのである。簡単に、完成されることを危惧するのである。便利になった分、容易にCADと云う道具を使いこなして、はじめて有効なのである。じっくり、時間をかける必要があり、早くから課題に取り組み、一度やりかえる時間の余裕があるのである。

ここで選ばれた作品に対する審査評をあげることにしたい。まず奨励賞となった3作品から始めることにしたい。

「やすらぎのある憩いの場」夢がある平面計画は良い。外構計画も良く使い易い。立面、窓の形状、配置は問題である。敷地の形状との関係は十分とは云えない。

「調和」桜並木との調和は評価したい。テラスに植えられたシンボルツリーとの対話が良い。円形とした内部空間、屋根の下の処理、外構デザインに問題がある。

「Canopied hall」大屋根によるキャノピーは内部と外部の中間領域をうまく処理している。使い勝手も良い、しかし集会場の形状、環境に配慮した二重天井は評価するが、まだまだ検討が不十分である。

次に、佳作となった3作品について、

「Brilliant」はプランのまとまりは良い、各室は無理なく納まっている。自然光の取り入れ方に好感を持った。軸線をふって、プランをまとめるのが気になる。さらに、設計をはじめるにあたっての大胆さが必要である。

「春夏秋冬」は中庭を囲む形状で平面計画をうまく処理している。屋根への形状も優れ、和風を感じる。囲まれた高層住宅からの眺めは良い。内部・外部の区画、中庭の広さ、外部通路からのアクセスなど問題がある。

「クリスマスツリーのある集会場」東西に開けたプランは外部とのつながりが良い。特に喫茶スペースが良い。放射円形にまとめたことは無理がある。放射状の部屋の形状にも問題がある。

次に、優秀作品賞となった3作品に移ることにしたい。

「庭と室内を一体化した施設」は魅力的である。中庭の配置が良い。

審査講評

中庭を抱き込むプランにしなから、道路、並木道、水路への配慮は不十分である。

「折り紙」はのびやかなプラン、敷地形状を大胆に使った点は評価したい。屋根の形状も面白い。動線、会議室、他各部屋形状に問題がある。

「結の棧」はエントランスに開放感があり、良好。まとまりのあるプランである。ガラス屋根の大きさ、雨水処理、屋根に昇る階段の位置は問題である。

最優秀作品賞となった「come together ー多様性と固有性ー」は周辺環境と調和を計っていること、明快でのびやかなプラン、高低差のある天井高、光の取入れ方、玄関に入った感じが優れている。しかし問題点もある、一は廊下の長さであり、二は集会場、倉庫の配置、広さである。問題点はあるが、この計画があつた場所に建つのに最も適していると考えた。これから設計を行うのに相応しい案と考えた。わかりやすいプランであり、ピュアな設計姿勢を評価したのである。